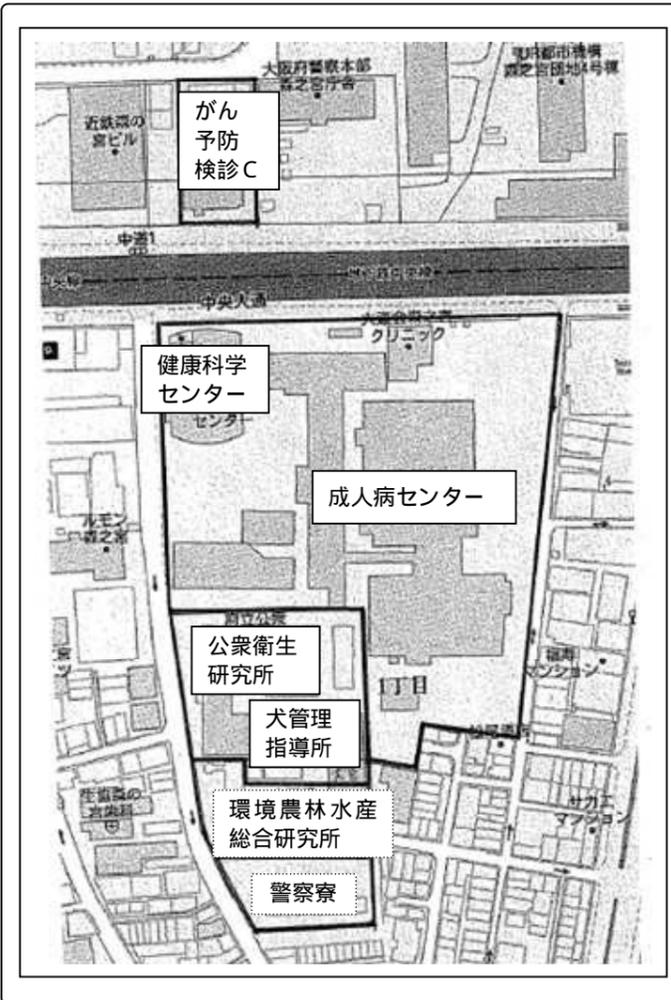


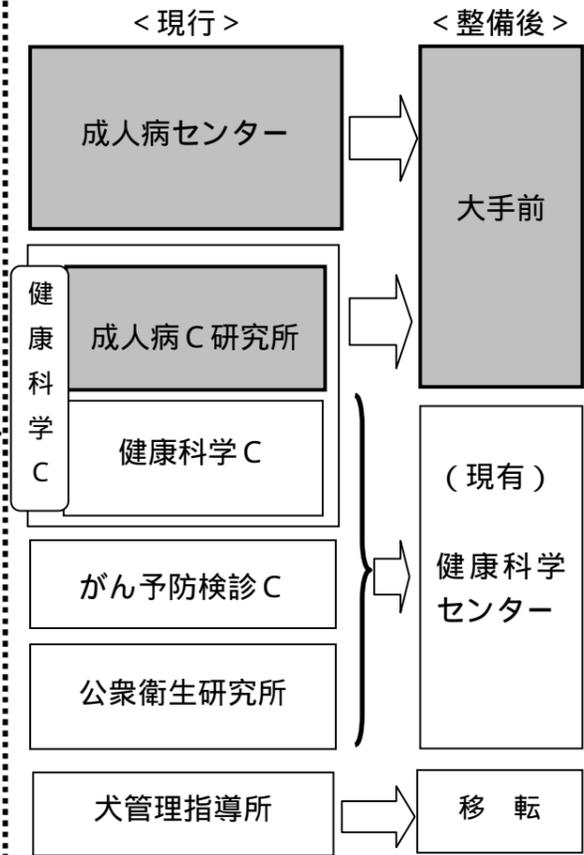
成人病センター等の整備について

現況図（森之宮健康ゾーン）

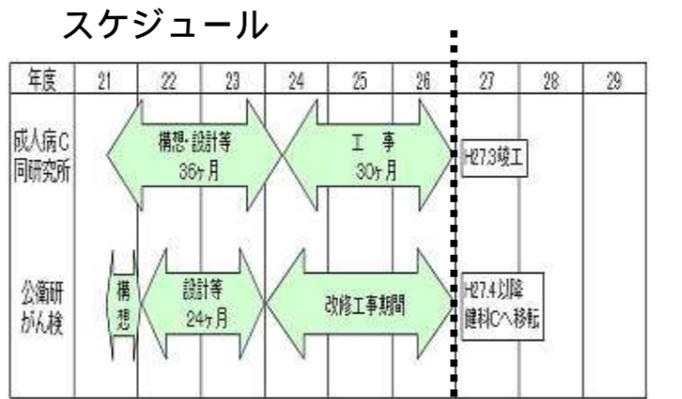


移
転
案

現
地
建
替
案



大手前地区のうち成人病C用地として約1.2haを確保



整備期間 5年半
整備費(超概算)

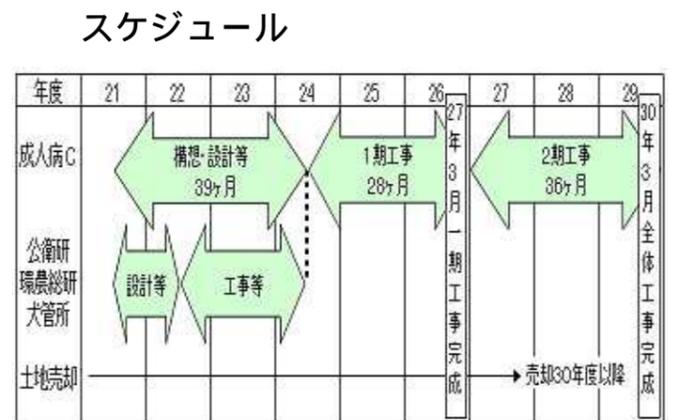
一般会計負担総額	309億円
(交付税を考慮した場合 207億円)	
(整備費内訳)	
・成人病センター整備費	341億円
・用地取得費	116億円
・健康科学C研究所等取得	32億円
・公衛研、がん検移転費	25億円
・犬管理指導所整備費	12億円
小 計	526億円

成人病センター
【現在】51,991㎡
(延床は本館・病院棟のみ)

公衆衛生研究所
環境農林水産総合研究所の移転跡地へ移転

犬管理指導所は移転

がん予防検診Cは、健科Cへ移転



整備期間 8年半
整備費(超概算)

一般会計負担総額	255億円
(交付税を考慮した場合 174億円)	
(整備費内訳)	
・成人病センター整備費	363億円
・公衛研整備費、がん検移転費	45億円
・犬管理・環農総研移転費	35億円
小 計	443億円

- ・成人病センター（昭和40年築）
- ・公衆衛生研究所（昭和34年築）
- ・犬管理指導所（昭和48年築）
- ・健康科学センター（平成13年築）
- ・がん予防検診センター（昭和62年築）

・センターが果たすべき役割

《ミッション》

がんの征圧 ~がん医療の基幹病院としての先導的役割を發揮~

《役割》

- ・府のがん対策推進の中心的役割
- ・がんと循環器の高度先進医療の実践
- ・府域のがん医療水準の向上

・備えるべき機能

~“がん医療日本一”を目指す~

1. がんと循環器の集学的医療の推進
2. 放射線・遺伝子治療などを活用した難治性・進行性・希少がん医療の充実
3. 人材育成・技術支援機能の強化による府域のがん医療水準の均てん化
4. 新しい診断・治療法の開発、がん情報の収集・評価・提供、府医療施策への提言
5. がん患者や家族に対する支援機能の強化

・新病院のイメージ(想定)

(1) 想定する施設規模

- ・病床数：500床(現行どおり)
- ・延床面積：65,000㎡
(病院60,000㎡[現行50,000㎡]、研究所5,000㎡)

(2) 建設場所/手法の検討

- ・建設場所：大手前地区(1.2ha)を念頭
現地建替案と移転案について『工期』、『整備費』を比較検討

	【移転案】	【現地建替案】	【移転案のメリット】
整備期間	約5年半	約8年半	約3年短縮
整備費(超概算)	約340億円	約360億円	約20億円安価
整備費には、最先端医療機器整備費約50億円を想定。			

- ・事業手法：PFI手法と従来手法で比較検討(整備費はPFI手法を念頭)

《府民からみたメリット》

1. 高度先進医療の推進による『難治性・希少性がん』等に対する治療成績の向上
 2. 治療技術の均てん化による『5年生存率』の向上
 3. 施設機能の拡充による『検査・手術待ち』の解消
- 移転案により早期に実現。工事による診療機能への影響も回避

・基本構想での検討項目(イメージ)

(1) 備えるべき機能

- ・がん医療の動向を踏まえ、今後センターが重点的に取り組む分野を整理

(2) 施設規模

- ・類似病院を参考に具体的な施設イメージ(面積、機能)を精査

(3) 整備手法及び工事費

- ・施設規模や敷地条件を踏まえ、PFI手法と従来手法を比較検討

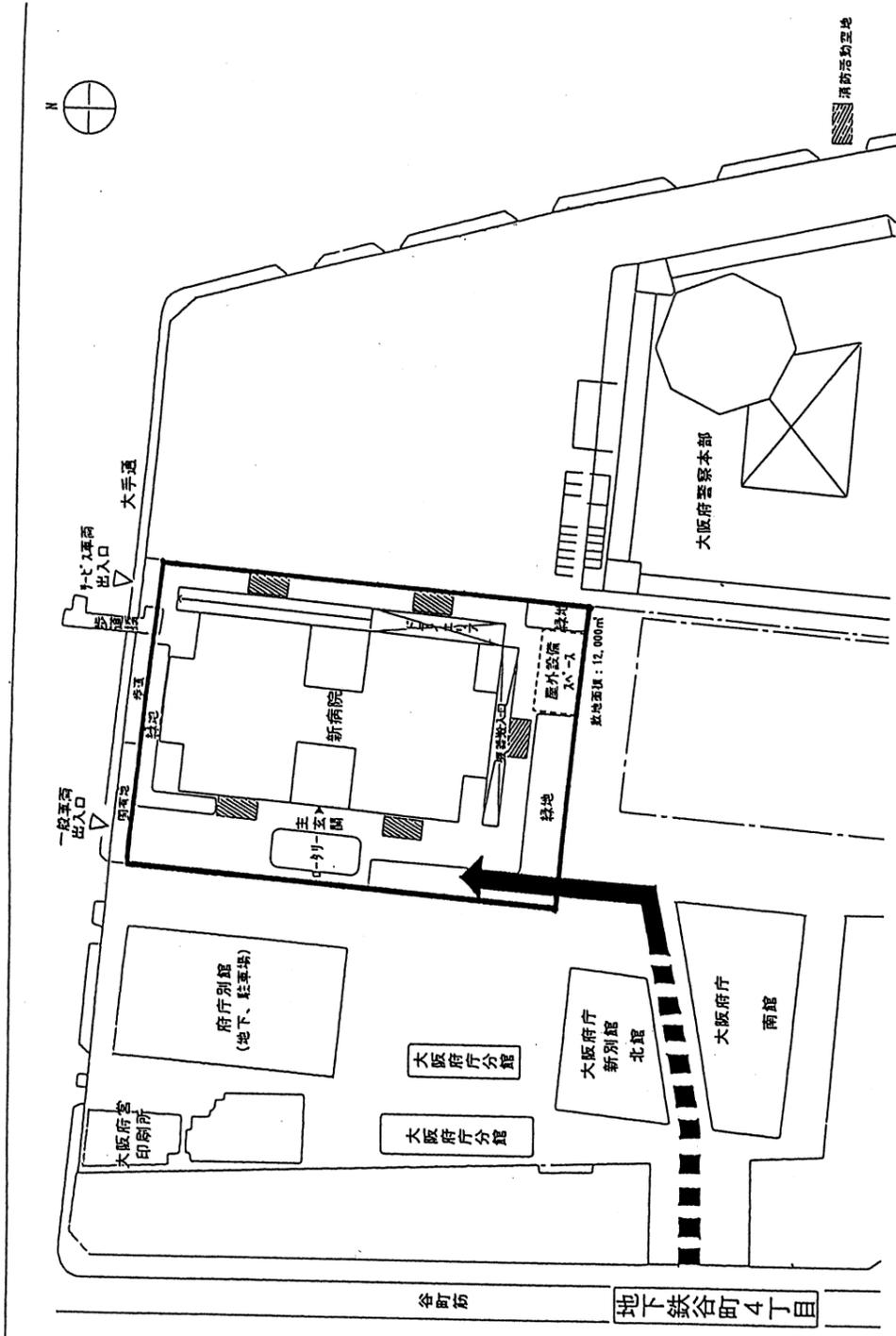
(4) 長期収支の分析

- ・20年度の決算状況や今後の償還負担を踏まえ、機構の収支を推計

新病院の配置イメージ

新病院の断面構成(イメージ)

PHF	電気室	
14F	研究所	
13F	機械室	
12F	病棟／ナースステーション	
11F		
10F		
9F		
8F		
7F		
6F		手術機械室／病棟／講堂／機械室
5F		手術室／ICU／CCU
4F		がん予防情報C／管理部門(医局、事務局、看護部)
3F		検査部／外来化学療法
2F		核医学検査(RI)／画像診断部
1F		検査部／医事事務／一般外来等
⇒主玄関		
B1F	薬剤部／SPD(中央倉庫)／医療情報部	
B2F	放射線治療部／機械室	



※この図はあくまでもイメージ(各方面未調整)のため、各部門配置については大きく変動する。

※建物の諸条件(いずれも想定)

- 病床数 500床
- 延べ床面積 約65,000㎡(病院60,000㎡、研究所5,000㎡)を想定
- 建築面積 約5,000㎡を想定(各フロア面積)